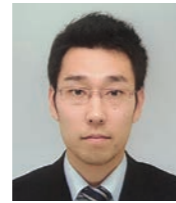


# 建コン業界活性化の一大ムーブメントを起こす

～「業界展望を考える若手技術者の会」の発足～



株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
**伊藤 昌明**  
ITO Masaaki



株式会社日本海コンサルタント  
**片岸 将広**  
KATAGISHI Masahiro

## 「業界展望を考える若手技術者の会」の創設

人々の安全・安心・快適な生活を支える、いわば『国土をつくる』という重要なミッションを果たしている建設コンサルタント業界。しかし、その存在は公共の陰になり光を浴びない業界だ。また、インテリジェントかつクリエイティブな職業でありながらもその仕事ぶりへの認知度は低い。さらに、「苛烈な土木バッシング」「多大な残業時間」「安い給与」「増える離職者」「減る入職者」…など、業界に対するネガティブなイメージは後を絶たない。

このような状況の中で、業界の「今」を憂い、そして何とか変えてやろうと、もがきながら業界の「未来」を描き、そして自らが先頭になって行動していく、そういう思いで2015年4月に発足したのが「業界展望を考える若手技術者の会」だ。

従来、業界の将来を考えるのは各企業の経営幹部の仕事であった。しかし、10～20年後に業界の中心を担うのは我々若手世代である。そうであれば、我々自らの手で将来のビジョンを描き、実現に向けて行動すべきではないだろうか。

ということで、この若手の会がスタート。メンバーは、20～40歳前半までの技術者20名。各企業から推薦された選ばれしオールジャパンメンバー。このメンバー達は、「業界の将来を自ら考えたい」「業界を牽引するリーダーになりたい」「業界全体を巻き込んだ活動にしたい」「業界の魅力を若手目線で発信したい」など、熱い思いを胸に秘めている。こうした思いを実際の活動につなげ、一つ一つ実現していくことが若手の会のミッションである。

若手の会は、一定の期間内に何らかの成果を出すことを目的に組織されたものではない。この主旨を受け入れてくれた建設コンサルタント協会に感謝しなければ

ならない。若手の会は、メンバーが互いに切磋琢磨できる学びの舎、アカデミアのような存在でありたい。また、全国へ門戸を広げ、建コンの将来を考える人材が誰でも集い、交流できるような組織に成長していきたい。そして、業界を活性化させる一大ムーブメントを起こしていきたい。

## 序章「建コンワールドカフェ in KANAZAWA」

若手の会は、会議室にこもり、自己満足的に将来ビジョンをつくるようなものにはしたくない。業界の若手技術者が今をどう考え、未来をどう予想しているのか、また土木を学ぶ学生がどのような“しごと観”を持っているのかといった、同世代のホンネを聞き出し将来ビジョンに反映させていく。こういうスタンスでつくったビジョンこそが、皆の共感を呼び、共に歩を進めようという意欲を湧き起こす原動力になるのではないかと。

その第一歩として、2015年8月28～29日、北陸新幹線開業に湧く石川県金沢市において、『建コン ワールドカフェ in KANAZAWA～みんなの「しごと観」と建コンの未来～』を開催した。若手の会メンバー17名に加え、近畿支部より2名、金沢で働く若手技術者28名、大学生7名の総勢54名が参加し、話題提供の後、ワールドカフェ方式の情報交流を行った。

話題提供では、ゲストスピーカーである国土交通省北陸地方整備局企画課の杉本敦課長補佐より、ワークライフバランスに配慮したウィークリースタンス、「月曜日を依頼の締切日としない」「水曜日は定時帰宅」「金曜日は依頼しない」や、若手管理技術者の登用に対する総合評価でのインセンティブ付与など、先駆的な取組をご紹介いただいた。また、今回のホストである北陸支部の取組として、PR動画「教えて！ケンコンさん」の上映や、建設コンサルタント企業が実施する公民連携事業となる

表1 参加者からの主な意見

テーマ	主な意見
テーマ① 「今の仕事や働き方をどのように感じていますか？」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりがいや達成感がある</li> <li>・社会に貢献できている感はある</li> <li>・設計したものが形になると嬉しい</li> <li>・発注者のお手伝いな働き方</li> </ul>
テーマ② 「みんなに羨ましいと思われる建コンの姿とは？」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事量が多く残業も多い</li> <li>・正直将来が見通せない</li> <li>・キツイ仕事なのに給料が安い</li> <li>・世間の認知度が低い…等</li> </ul>
将来のあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的集団であることが理解される</li> <li>・社会的地位が確立されている</li> <li>・自分の名前が残る</li> <li>・子どもに誇れる仕事ができる</li> <li>・まちのリーダー（市長なみ）</li> <li>・コンサルが事業を創り出している</li> <li>・広告業界みたいなハイセンスな仕事</li> <li>・クライアントの幅を広げる</li> </ul>



写真1 杉本課長補佐による話題提供



写真2 12のテーブルに分かれて対話

金沢市公共レンタサイクル「まちなり」について紹介した。

ワールドカフェでは、参加者が12のテーブルに分かれ、表中の2つのテーマについて議論した。また、若手の会メンバーが持ち寄った全国各地の銘菓・ドリンクを片手に、カフェにいるような雰囲気ですらリラックスして対話を重ねた。意見交換した後、参加者各自で印象に残ったことをA4用紙に記入してもらい、それを全員が自由に見て回ることで全体共有を図った。ワールドカフェでは、辛辣な意見、肯定的な意見もあり、参加者のホンネが聞き出せたのではないかと考えている。

これらの意見を踏まえ、最後に杉本課長補佐より「建コンは国や地域にとってかけがえのない存在。皆さんの活発な意見交換の様子を見てみると、建コンの未来は明るい」との総評をいただき、盛会のうちに幕を閉じた。ワールドカフェ終了後の集合写真では、参加者全員の素敵な笑顔をフレームに収めることができた。大学生からは「自分のしごと観を考える良い機会となった」「若い人が業界を代表して活動をしている建コンの将来は明るいと感じた」、地元若手技術者からは「日頃はしんどい思いをしているが、建コンの仕事の魅力・やりがいを

考えているうちに自分はこの仕事が好きなんだと再認識できた」「日頃このような機会がなく、同年代との意見交換はとても刺激的だった」など、たくさんの嬉しい感想をいただいた。

なお、当日の様子は建設工業新聞（8月31日付）、北國新聞（9月2日付）、日刊建設通信新聞（9月4日付）にも取り上げられた。

若手の会の活動はまだ始まったばかりだが、今回のワールドカフェでは“業界活性化の一大ムーブメント”への足掛かりとして確かな手応えを感じ取れた。今後は、全国の支部を行脚し、各地の若手技術者・学生等との交流を図りながら、そこで得た意見やアイデアをもとに我々の将来ビジョンを具現化していきたい。

## 今、こんな将来ビジョンを描いています！

“何年後の将来ビジョンを描くのか？”…我々が最初に直面した問題であった。50年後、100年後の明るい未来を描くことも考えられた。しかし、我々の世代が行動し、実現することに責任を持てる30年後（定年頃）を想定して将来ビジョンを描くこととした。



写真3 素敵な笑顔が最高の成果

では、30年後、我々を取り巻く社会はどのように変わっているのだろうか。そのキーワードとして次のようなものが想定される。

**社会:** 人口減少による地方衰退の加速／大規模災害への恐怖／インフラ・メンテナンス時代／格差拡大

**市場:** 単一業務から複合業務／単年度契約から複数年契約／設計技術のAuto Formation化／新たな付加価値の追求／アナログ回帰（自然・農業・ロハス）／時代に応じた業界再編

**働き方:** 職住近接／コ・ワーキング／働く場から集まる場へ／lotによる万物シームレス化／フレックス勤務

我々は、こうした未来予想をもとに、30年後“こんな業界になりたい、こんな仕事を手掛けていたい、こんな職場で働いていたい、こんな働き方をしたい”というあるべき姿を、3つのワーキンググループに分けて、議論を展開しているところである。

**市場WG:** Softbank、TOYOTA、電通、資生堂等の将来ビジョンや事業展開の分析

- ・ 強みである技術サービスを活かし、人々や社会が望む新たな価値を提供
- ・ そのため、あらゆる分野の先端技術を取り入れ、コラボレート

- ・ ニーズにこたえるだけでなく、ニーズを創り出すスタンス
- ・ 部分最適（専門分化）ではなく、全体最適（インテグレート）

**働き方WG:** Google、HONDA、サイバーエージェント等のオフィス環境、働き方の分析

- ・ 付加価値・アイデアを想起しやすい最先端のオフィス環境、制度等の整備
- ・ 贅沢な職場スペース（娯楽・休息・余暇・食事・リラックス）
- ・ 仕事を愛し、コミュニケーションを大切にする風土
- ・ スピード重視（超効率化）or品質重視（効率を追求せず）
- ・ イノベーションのための20%ルール適用（仕事時間の20%を好きなプロジェクトへ）

**イメージWG:** 最も困難だが最も効果のあるイメージ戦略（月9ドラマ化構想）

- ・ 木村拓哉主演「HERO」のストーリー分析
- ・ 建コンの仕事に当てはめたドラマ仕立てのストーリー構築
- ・ 一般世論に訴求性の高い業界の魅力、仕事のやりがいの発信



写真4 定例会の様子

いかがだろうか？

このように、若手の会では、憧れるメジャー企業のビジョンや事業プランに触れる、最先端のオフィス環境・働き方を見る、有名ドラマと自らの仕事を照らし合わせてみるなど、日常業務から離れて味わったことのないワクワク感を感じながら議論しているところである。議論はまだ途に就いたばかりで結論には程遠いが、“我々世代の、我々世代による、我々世代のための将来ビジョン”を描くことができると確信している。

### Facebook「建コン4.01（ケンコン・フォース）」

この若手の会、別名を「建コン4.01（ケンコン・フォース）」と呼んでいる。

建コン業界は戦後に成立し、発祥して60年程度が経過している。その中で、第1世代にあたるのが、戦後復興・高度成長を支えた「創世期」のリーダーたち。第2世代は、安定成長・バブル景気のあった「発展期」。そして、現在失われた20年と言われる「成熟・変革期」を支えてきた第3世代のリーダーたちである。我々は、次の第4世代を担う未来のリーダーになるべき存在である。我々はそれを自覚し、行動しなければならないと感じている。

「4.01」の数字には、「4th（フォース）」「第4世代」「タスクフォース」の意味を込めている。「.01」は、そのもう一

歩先をいきたいという気概だ。

若手の会の活動は、今後もFacebook「建コン4.01」で随時報告していく予定である。ぜひ、「ケンコン」で検索し、「いいね！」ボタンをポチッと押してもらいたい。

＜業界展望を考える若手技術者の会 メンバー＞	
青木 真利子	株式会社ドーコン
青柳 竜二	株式会社長大
荒木 一徳	株式会社復建エンジニアリング
伊藤 昌明	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
片岸 将広	株式会社日本海コンサルタント
上條 孝徳	日本工営株式会社
沓掛 亮太	株式会社復建エンジニアリング
塩谷 章	朝日航洋株式会社
清水 亨一	西日本技術開発株式会社
鈴木 崇之	パシフィックコンサルタンツ株式会社
鈴木 直司	株式会社ニュージェック
田ノ畑 聡史	中央復建コンサルタンツ株式会社
竹内 聡	開発技建株式会社
角田 真奈美	株式会社建設技術研究所
中村 翔一	株式会社建設技術研究所
藤原 真太郎	アジア航測株式会社
本間 雄太	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
眞野 基大	株式会社エイト日本技術開発
山口 竜司	株式会社片平エンジニアリング
山本 浩樹	八千代エンジニアリング株式会社
山本 佳和	株式会社復建技術コンサルタント

50音順 2015年12月現在